

道づくり計画の骨子

長浜市の現況 (第1章)

《地勢・自然条件》

- ・二度の合併により、琵琶湖を除くと県内で最も**広大な市域**
- ・**災害危険箇所が多く分布**
- ・北部は**県下有数の豪雪地帯** (余呉地域は特別豪雪地帯)

《人口の推移と見通し》

- ・人口はH22に減少に転じており、将来的にも減少する見通し (H17: 124,498人 ⇒ H22: 124,131人)
- ・H42には高齢化率が30%を超える見通し

《市道の状況》

- ・市道の改良率は53.6%で県平均(55.1%)を下回る
- ・幹線市道(一級・二級)の改良率は県平均を上回るが、**その他の市道の改良率は県平均を下回る**
- ・都市計画道路(市道のみ)の改良率は低い(H24.3: 11.6%)

《橋梁の状況》

- ・橋梁の多くは高度成長期に集中的に建設されており、**今後老朽化が急速に進行**(建設後50年以上の割合はH25: 15%、H45: 68%)

《交通事故の発生状況》

- ・H23からH24にかけては、件数は横ばい、負傷者数は微増
- ・死者数は概ね10人前後で推移

《自動車交通量》

- ・幹線道路の交通量は減少傾向の路線が多い
- ・H20の国土交通省の推計では、走行台キロの将来推計値はH42にはH17実績値に比べ、2.6%減少(H14推計値に比べ13%減少)

《除雪・消融雪の状況》

- ・機械除雪を行っている市道の延長は約656km(全市道の55.1%)

《合併前の地域間の比較》

人口: 長浜地域ではH22にかけても増加傾向している一方、北部地域では減少が著しい

《市民意識調査》

- ・量的な満足度に比べて、**質的な満足度が低い**
- ・道づくりにおける優先度としては、「**緊急時・災害時対策**」が高い
- ・今後取り組む具体的事業としては、「危険箇所の改善や消融雪施設の整備」に加えて、歩道の設置など「**利用者の安全性**」を重要視している
- ・**適正な維持管理**により、道路や橋梁を長く大切に使うことが望ましいという意見が多い

道づくりの課題 (第1章)

緊急時でも地域が孤立しない道路網の構築

市町村合併により南北に細長い広大な市域となっており、日常生活の拠点が北部振興局や各支所の周辺に点在している。
中山間地域は厳しい自然条件下にあり、緊急時の避難路、輸送路が不十分な地域があるため、これらの地域が緊急時でも孤立しない道路網の構築が求められている。

道路利用者の安全性の確保

道路の安全面に関するニーズが強く、本格的な人口減少・超高齢社会の到来により、高齢者が増加し、安全面で特に配慮が必要である。
歩行者や自転車を含めた、全ての道路利用者を対象とした安全性の確保が求められている。

身近な生活道路の整備の遅れ

幹線市道に比べて身近な生活道路の整備が遅れている。
長浜市が事業主体となる都市計画道路の整備が進んでいない。
日常生活利便性の向上に資する身近な生活道路の整備が求められている。

道路・橋梁の更新需要の増加と時期の集中

高度成長期に数多く整備された道路や橋梁は老朽化が進んでおり、今後、補修・更新需要が増加し、橋梁に関してはその時期も集中する。
限られた財源の中で効率的な維持管理の取り組みが求められている。

道路環境の質の向上

市内の幹線道路での交通量の減少や、国レベルでの長期的な交通量の減少が見込まれる中で、必要な箇所が必要な新たな道路整備を進めるとともに、道路環境の質の向上を図ることが求められている。

地域毎の道づくりに違い

合併前の旧行政区により、人口動態が大きく異なっており、市道・橋梁の整備状況やサービス水準にも地域毎に違いがみられるなど、地域の事情に即した発展を目指すことが求められている。
新市としての市道認定路線の見直しも必要となっている。

道づくりの基本理念 (第2章)

地域の暮らしを支え、育む協働の道づくり
～いつでも、どこでも、だれでも利用しやすい道へ～

↓

道づくりの柱 (第2章)

賑わい・活力を創出する道づくり

- 広域交流の促進
- 地域間連携の強化
- 定住環境の整備

誰もが安全で使いやすく、人にやさしい道づくり

- 既存の道路空間の質的向上
- 全ての人にやさしい道づくり
- 交通安全対策の推進による交通事故の削減

緊急時の暮らしの安心を高める道づくり

- 災害に強い道づくり
- 雪に強い道づくり

適切な維持管理による次代につながる道づくり

- 効果的かつ効率的な維持管理体制の構築
- 持続可能な道づくり

道づくりの進め方 (第3章)

整備優先性の考え方

評価指標の設定 (4つの柱ごと)

↓

評価指標に基づきランク分け (事業の実現性も考慮)

↓

財政状況などの整理

↓

財政状況の見通しを反映し、整備優先性を設定

道づくりの進め方

- 多様な主体との協働・連携
 - 協働・連携による道づくり・道づかいへの転換
 - 市民との情報交換・意見交換の充実
 - 地域住民が愛着を持ち守り育てるシステムづくり
 - 地域特性を踏まえた社会実験の実施
 - 市民、企業、行政などの連携による目標の設定、共有化
- 庁内組織体制の充実
- 関係機関との調整・連携
- 計画の進行管理

太ゴシック: 長浜市の重要な地域特性